

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	平成28年度第2回ふじみ野市総合振興計画審議会			
開催日時	平成28年9月1日（木曜日） 午後7時から午後9時20分			
開催場所	ふじみ野市役所本庁舎5階 執行部控室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	中村 賢一	委員	大平 聡男
	副会長	富田 信太郎	委員	福村 光泰
	委員	野澤 利夫	委員	西村 ひろみ
	委員	岸 昌哉	委員	牛場 清
	委員	柳沢 俊男	委員	進藤 美奈子
	委員	郷 秀樹	委員	渡辺 千尋
欠席者名	鈴木 絵里委員			
会議の議題	1. 開会 2. 議題 (1) 平成28年度市民意識調査結果について (2) 基本構想骨子（案）について (3) その他 3. 閉会			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由	—			
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	【次第】 【資料1】 平成28年度ふじみ野市市民意識調査結果報告書 【資料1-2】 平成28年度ふじみ野市市民意識調査結果報告書 （自由意見欄） 【資料2】 基本構想構成（案） 【資料3】 ふじみ野市のあるべきすがた＜基本理念・将来像＞の 検討 【資料4】 重点的に取り組むべき事項について			

事務局	総合政策部 経営戦略室 (金子部長、樋口室長、武井副室長、山本主任、黒川主任) アビームコンサルティング株式会社	
議事の確定	確定年月日	平成28年9月13日
	記名押印	役職名 会長 中村 賢一 ㊟

発言の要旨

発言者	発言の要旨
中村会長	<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 平成28年度市民意識調査結果について</p> <p>本日のポイントは、資料3「ふじみ野市のあるべきすがた＜基本理念・将来像＞の検討」です。基本理念や都市将来像を事務局の説明を踏まえて議論し最終的には決定することが一番のポイントとなります。その点を意識しながら進行させていただきますのでよろしくお願いたします。</p> <p>では、議題(1)「平成28年度市民意識調査結果について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(資料1「平成28年度市市民意識調査結果報告書」、資料1-2「平成28年度ふじみ野市市民意識調査結果報告書(自由意見欄)」を基に説明)
中村会長	ありがとうございます。何かご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。
牛場委員	回答率が悪いようですが、統計学的にこの回答率で有効と考えていいのですか。
事務局 (アビームコンサルティング)	資料1の1ページ目をご覧くださいと、47.8%ということで、一見、高くないようにも見えるかもしれませんが、都市部の中ではある程度高く、一定以上の数値を集められたと認識しております。
牛場委員	18歳以上の市民全体からすると8万人くらいだと思うので、1.5%には届いてないですね。
事務局 (アビームコンサルティング)	18歳以上の人口からするとご指摘のとおりですが、本市の人口規模からしますと男女それぞれ400件以上の数値が取れば、統計学的には正確性が高いということになりますので、その基準を十分に満たしていると認識しています。

中村会長	他にないようであれば、議題(2)「基本構想骨子案について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	(2) 基本構想骨子案について (資料2「基本構想構成(案)」、資料3「ふじみ野市のあるべきすがた＜基本理念・将来像＞の検討」、資料4「重点的に取り組むべき事項について」を基に説明)
中村会長	<p>ありがとうございました。もう一度頭の中を整理したいと思います。今の説明で、特に議論していただきたいのは資料3の「基本理念」と「将来像」、資料4の「重点的に取り組むべき事項」の2点です。ある程度の方向性を出したいと考えております。したがって、資料2の「Ⅱ. 基本構想」の「第2章将来人口」と「第3章土地利用構想」、「第4章まちづくりの基本目標」は、次回に議論をするという形になりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>それでは、事務局から説明があった内容に対して質問等はございますか。</p>
中村会長	では、私からよろしいでしょうか。最初に説明がありました市民意識調査の結果を、どのように「基本理念」や「将来像」の中に盛り込んだのかということ事務局より説明いただけますでしょうか。市内部での議論の過程でも良いので教えてください。
事務局	本市は住宅都市ということで、市外に通勤されている方がかなり多くいらっしゃいます。そういったこともあり、市民意識調査では最初に、なぜふじみ野市に住んでいるのか、なぜふじみ野市に引っ越してきたのかというところの、本市の魅力を洗い出したいと考え、その魅力について市民からのご意見を頂いたところです。まずは本市の魅力を整理した上で、魅力については更に伸ばしていこうと考え、また、反対に市民が不満に思っている部分については改善していこうと考え、このような「基本理念」、「将来像」という形に整理をした状況です。
中村会長	よく言われるSWOT分析をある程度やったということですね。強みの部分を「将来像」に盛り込みたいと考え、反対に弱みについては、補強なり修正するという形でやっていこうというように活用したという理解でよろしいですね。

<p>進藤委員</p>	<p>「基本理念」である「安全・安心、地域力、環境」という大きい3本柱を軸にして「将来像」を目指していきたいというのが、事務局の案です。これはあくまでたたき台ですので、こういう表現がいいかどうかという部分も含めて議論したいので、各員1人ずつに意見を伺っていきたいと思います。あまり方向性に捉われることなく、最上位計画に対する想いでも構いませんので、よろしくお願いします。</p> <p>私から最初に意見したいと思います。先ほど、事務局から説明がありましたが、市民意識調査結果をベースにある程度方向性を決めたという話でした。実は、これは他の市でも結構やっている手法ですが、市民の皆さんの要望がそのまま計画になってしまうということはデメリットもあります。本来、政策として立案する場合は、科学的分析に基づいて、方向性を示す必要があります。市民の要望だけを羅列して方向性を示してしまうと、市民利用型の最上位計画になってしまう可能性があるということです。やはり、できることは「出来る」、できないことは「出来ない」ということを、ある程度示すことも必要ではないかと思います。メリハリが大事だと思うのです。では、どういうところにメリハリを付けるのかというところまでこの審議会で議論する必要があると考えております。他の市の例も結構見せていただいて意見を言う時もありますが、往々にして、総花的に誰も文句が言えないような最上位計画が策定されてしまうところがほとんどです。ふじみ野市の最上位計画は、市民に対して具体的な方向性が明示できればいいと私は思います。「できないものは出来ません」という意思表示をある程度盛り込まないと、具体性に欠けるのではないかと思います。先ほどの事務局の説明を聞いていて気になっているのが、市民意識調査で市民の意見を聞きました、市にとっての強みはここです、では、弱いところはカバーしますということであると、「あれもこれもやります」という最上位計画になってしまうのではないかということです。そうではなく、「ふじみ野市はこうやります」というところは明確に打ち出し、「残念ながら、ここについては駄目ですよ」という部分も表現するような中身の最上位計画を策定できないかということをお個人的には考えています。</p> <p>それでは、各委員に順番にお聞きします。進藤委員はいかがでしょう。</p> <p>意見がまとまってはいないですが私は芸術家なので、資料1を拝見した時に恐ろしいなと感じました。それはなぜかと言いますと、各分野の市の取り組みに対する「満足度」や「重要度」を伺う設問で、「文化・芸術」という分野は他の分野の「子育て支援」や「高齢福祉」、「障がい福</p>
-------------	--

	<p>社」などその他、いろいろな分野につながるものだと考えているのですが、「文化・芸術」の分野に対する調査結果はすごく「重要度」が低くて、悲しい感じがしています。「文化・芸術」は様々な取り組みにつながるものなので、そこは主張したいと思います。例を挙げると福祉関係でしたら、音楽を絶対に必要としていますし、施設に行くと歌えば皆さんに喜んでもらえますし、障がい者施設の子どもたちと一緒に音楽を歌ったり演奏したりということも、もちろんつながっているものです。学校教育では様々な科目で音楽を使用することがあり、音楽が学力向上につながっていくものと思います。「文化・芸術」とだけ聞くと、美術館に行くとか、クラシックの敷居の高いものを聴くということイメージされるかもしれませんが、決してそうではなくそれは一端にすぎず、もっともっと広くふじみ野市では取り扱って、裾野を広げた活動が出来たらいいなと考えています。</p>
中村会長	<p>ありがとうございます。進藤委員の発言された部分は、今後、議論を進める上で気を付けていきたいと思います。データだけを見ますと、正確な理解がないままで回答しているケースもあると思います。また、「文化・芸術」を市民がまだ気が付いていない世界というものがあるとすれば、それを提示することによって、異なった結果となる可能性もあります。</p> <p>続いて牛場委員はいかがでしょうか。</p>
牛場委員	<p>資料3の「将来像」にはとにかく「住」という言葉がたくさん出てきています。これは同資料で記述されている「住みよき埼玉県No.1」という言葉がそのまま反映されていると推測されます。「基本理念」では現総合振興計画と比べると「協働」という言葉がなくなり、「環境」が「住環境」に変わっていると思います。何を言いたいかというと、現総合振興計画では「将来像」にしても「基本理念」にしても様々な表現が入っていましたが、今回挙げられた「将来像」には、良いまちをつくり、移り住んでいただく、そこに特化されているように感じてしまいます。「住む」という表現がない「将来像」も例として挙げていただいた方が良いと感じました。</p>
中村会長	<p>確かに「住む」に特化した形に見えますね。それも踏まえて、あとで議論していきたいと思います。次に西村委員はいかがでしょうか。</p>

西村委員	<p>私は高校三年生の時に旧大井町に引っ越してきました。当時は通学で池袋まで通っていたので町に対して興味はなく、役場の場所も知らず生活をしていました。しかし結婚をして、子どもができると保健センターですとか、行政について知る機会が増えていきました。子どもが小学校、中学校と成長するにつれて、子どもがとてこのふじみ野市が好きだと言うようになりました。どうして好きなのかまでは気にしていませんでしたが、今回、この審議会を通してふじみ野市の将来のことを考えていますと、何が魅力なのだろうと、真剣に興味を持ち始めた状況です。私は主婦ですから、子育て支援が充実しているということがやはり重要であると思います。将来、娘も結婚をして子どもが生まれたら、保育所が必要となります。このように日頃の生活に直接関わる分野でふじみ野市をPRしていく提案の仕方もいいのかなと考えているところです。</p>
中村会長	<p>昨年策定をしました「ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」というものがあります。これは、内閣府が地方創生として、いわゆる人口推計を踏まえた上で、各市町村で人口増加や地域活性化を目指した戦略的な計画を立てなさいと示したものです。要するに、東京への人口の一極集中と少子高齢化を解消するというのが狙いです。今回策定する最上位計画はこの「ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合性を図らなければなりません。人口推計からすると、人口増加を目指した最上位計画の検討を進めなければならないということです。まさに、今意見があったように、「子育てがしやすい」ですとか、「子どもを産みやすいまち」ということをPRしていくことも考えられます。</p> <p>次に福村委員はいかがでしょうか。</p>
福村委員	<p>私は自治組織の代表として参加しており、市民意識調査結果の中では地域性の問題が多く出ているなと感じました。特に自治組織では高齢化の問題があります。私は、旧上福岡市の時代から住んでいますけれども、当時から比べると合併以降の環境、人口の増加にしても、資料に記述されているように埼玉県ではトップクラスというのは自負できる場所だと思います。いずれにしても、地域の活動については、自治組織を中心に市全体の活力となるような取り組みを進めていきたいと考えているところです。</p>
中村会長	<p>最近、よく言われているのが、地域コミュニティですとか自治組織の支</p>

	<p>援です。やはり、現在市が担っている行政サービスの量は限界が来ており、人員削減の推進ということも踏まえ職員は多忙な状況です。その中で、今の地域のサービスをどう維持していくかというのは、非常に大きな課題です。そこで、重要なポイントとなるのが自治組織です。今後、自治組織と市との協働が少し増えてくる可能性があります。この最上位計画の中でも、そういう地域をどう活用していくかということを明示しても良いのではないかと思います。地域で起きている細かい課題に対しては、やはり地域が自らで解決をするという形がベストであると思いますので、その点についてこの最上位計画の中で触れても良いかと考えます。</p>
<p>福村委員</p>	<p>自治組織への加入率や活動の内容については地域差が生じています。私が住んでいるのは南台2丁目ですけども、加入率は70%で市全体でも上位に入っています。私どもの自治組織は防災対策も含めて、若い人になるべく参加いただく形で活動を行っていますが、年齢比率からすると高齢者が多い状況です。特に、男性の参加率が悪く、役員になる方も女性が多い状況です。そのような課題も抱えています。</p>
<p>中村会長</p>	<p>男性は、参加率が低いかもしれないですね。でも、自治組織のイベントで地域の人が集まることはすごく大事なことです。いわゆる防災や防犯でものすごく効果を発揮するのです。今、日本全体で災害が頻繁に発生していますが、発生した際は一番初めに自助、共助が必要になってきますので、地域力がないと助け合いがスムーズに行われな可能性がります。よって、普段から地域活動がすごく大事だと思います。続いて大平委員お願いします。</p>
<p>大平委員</p>	<p>私は商工会から推薦されてここに参加させていただいているものですから、そういった観点からお話しさせていただくと、今後13年くらいまでは人口が増加することですが、ふじみ野市は皆様もご存じのとおり、大型店舗がたくさんあるかと思えます。大型店舗の人口に対する延べ床面積というのは、全国的にも大変高い数値だと聞いておりますし、また、このすぐ隣にもショッピングモールが建つ計画があると聞いているところです。そういった状況で、地元の小さな商店なり商店街が大型店舗と競争していくには、当然、資本力が足りないと思えます。共存する方法を探ることが今後の課題として、努力していく必要があると思っているところです。また地元商店街も含めた地域のコ</p>

<p>中村会長</p>	<p>コミュニティ、買い物弱者というような状況がなくなるような環境づくりができないかという観点で、最上位計画の策定にあたって検討していきたいと考えておりました。</p> <p>大型店舗に頼っているというのは、実は危険なのです。私は浦安市に住んでいますが最近大型店舗の撤退がありました。あの浦安市でさえ撤退する店舗が出るということです。大型店というのは不採算になるとすぐ撤退します。地元の商店は自営で直ぐには撤退しようがないですから、地域に残ります。そういう意味では、地元の商店と、企業をどう連携させていくかということが重要視され始めているところです。行政はこれまで公平原則で進めることが当然で、そうすると大手が出店するケースが多い状況でした。ところが、地元産業の保護や優遇策というのがどこの市でも進められています。地元の中小の事業主や企業と市が連携をして取り組みを進めるということも方向性として打ち出す必要があると思います。今までは行政と商売は全く別物だという感覚が一般的だったかもしれませんが、これからは協働で取り組んでいくことが必要になると思います。地元の企業は、市と連携しながら強みを生かすということをやらないといけないと思うので、地元の企業や団体をどう育成するかということも市は意識しないといけないと思います。産業政策としては重要なところかもしれませんので、ぜひご意見を頂ければと思います。続いて郷委員をお願いします。</p>
<p>郷委員</p>	<p>資料3の4ページ目、魅力を感じる部分と不満を感じる部分というところで、大体の項目が、魅力に感じている方が多ければ不満に感じている方が少ないのですけれども、「交通の便が良い」と魅力に感じている方の人数が、魅力の全体で3位に位置しているのに、反対に「交通の便が悪い」と不満を感じている方の人数は、不満の全体で1位になっています。この結果は不思議だなと感じています。駅から近くに住んでいる人はアクセスがいい、少し離れている人は不満を感じていると推測されますが、都心へのアクセスについては「良い」、「悪い」と両方とも意見が挙げられていました。最近では横浜まで直通になっているし、アクセスは良いと私自身は感じているのですが、不満の中でも、都心に行くには少し遠いという不満を感じている人がいるというのは、疑問に思います。また、ふじみ野市は「ふじみ野市元気健康都市宣言」をしたので、なぜそういうことが資料に含まれていないのか疑問に思いました。そういう方向性をふじみ野市は歩みますという宣言をしたのだから、やはり</p>

<p>中村会長</p>	<p>そこも最上位計画に盛り込んだ方が良いと思います。私は体育協会に所属しており、年々、公園では思いきりサッカーボールを蹴ったり、軟式のボールを投げ合うということができない状況です。学校にも、勝手に入ると怒られてしまうので、親子で触れ合う場所が少なくなっているということも課題として認識していただく必要があります。健康であるために、親子が楽しく触れ合える環境をつくれるまちにして欲しいと考えています。私自身も子どもの頃、キャッチボールをする場所を探すのにすごく苦労しました。公園でやると自転車に乗っている子どもがいたり、小さな子どもがよちよち歩いているので、ぶつかるのではないかと心配で近くの駐車場でやらなくてはならない状況でした。遊べる環境が不足しているのかなと感じます。地域で健康のための活動ができる環境づくりを確保するという視点を持っていただきたいと考えています。</p> <p>「ふじみ野市元気健康都市宣言」をしているということは、行政の一貫性が必要とされます。当然、そういう内容が計画の中に記述されていないといけないと思います。具体的にどうするのかというところまで議論を進めると、例えば、学校開放の問題が挙げられます。昔は放課後のグラウンドを自由に使えましたが、現在は管理上の問題から自由には使用が出来ません。行政側が規制緩和や何か工夫することにより、使用可能にすることが必要ではないかと考えます。なぜならば、「ふじみ野市元気健康都市宣言」により、健康づくりに取り組みましようと言っておきながら、学校のグラウンドの使用には制限がありますというのは、少し矛盾を感じます。基本構想ではそこまで踏み込んだ具体的な記述は難しいかもしれませんが、施策単位に落とし込む際には、検討をいただきたいと思います。</p> <p>それから、今後、この最上位計画を検討していくにあたり、データの見方に気を付けなければならないと思います。先ほども話に出てきましたが、市民意識調査の結果ではデータの取り方によって数字が変わってきます。質問の仕方によって変わってくるのです。交通の便が良い、悪いも人によって感じ方が違うのです。皆さんも単なる数字だけで判断するのではなくて、その点を考慮しながら判断しないといけないと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>続いて柳沢委員をお願いします。</p>
<p>柳沢委員</p>	<p>私はふじみ野市社会福祉協議会の代表として出席していますが、一番気になっているのは、福祉という分野です。ある東京の自治体では最上位</p>

<p>中村会長</p>	<p>の計画で福祉政策を重点的に行うとして、「福祉のまち」であるとうたったケースがありました。これにより福祉サービスを必要としている方の転入が増えたようですが、最終的には福祉の予算が膨らみ、他の政策を縮小せざるを得なくなり、市としてはすごく衰退してしまったという事例もあります。今現在、ふじみ野市社会福祉協議会の中で、相談事業を行っていますが、結構、地方からの問い合わせがあります。それは「今度、ふじみ野市に引っ越したいと思っており、ふじみ野市は非常に子育てしやすいまちと聞いております」という問い合わせです。それだけ魅力のある市になってきているのだなと感じています。私が一番怖いと感じていることは、ふじみ野市も13年後には人口が減っていくということです。人口が減っていくということは、市全体が衰退していくことにつながると考えられます。やはり一番大事なことは、人口をどうやって増やすかということだと思います。13年後以降に減っていくということが分かっているのだから、そこに一番重点を置いて、いかに人口を維持するか、いかに減らさないように魅力のあるまちにすることが、大変重要だと考えております。</p> <p>資料3の13ページで、将来像の案として「住んでみたい 住んで良かった 住み続けたいまち ふじみ野」が挙げられていますが、その説明書きで「そして何世代にも続いて住み続けたいと思えるまちを目指します」と記述されており、ここがすごく大事であると感じております。一時的な施策を打ち出したとしても、それはある程度の人口増加があるだけで、若い世代の方であれば、ふじみ野市よりももっと交通の便の良いまちへ移動していってしまうと考えられます。そこを、いかに、ふじみ野市に住んでみたいと思っただかくか、「うちのお父さんもお母さんも私をふじみ野市で育ててくれたから、私も結婚子どもができればこのふじみ野市で育てたい」といった思いを持ってもらえるかが重要で、循環型により人口をキープ又は増加させることが必要です。「ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、長期的な視野に立って人口減少を視野に入れて戦略として計画を立てている。今回の最上位計画というのは、計画期間を10年に設定している自治体が多いのですが、今回、ふじみ野市は13年で設定しており、ちょうど人口が減少期を迎える時期に終期となります。先ほど柳沢委員が発言されたように、人口が減るということも意識しながら計画策定をしておかないと、人口が増加している最中に策定することになりますので、夢の世界を描いてしまうのは危険だと考えます。それから、近隣の市町村も人口増加に向</p>
-------------	--

	<p>けて頑張っており自治体間で競争になっている状況です。ふじみ野市だけが頑張っているのではなくて、他の市も頑張っているため、競争が激化しています。そういう意味では、他の市と同じことをやるのでは特徴がないし、ふじみ野市の魅力って何だろうというものを再考して、ふじみ野市の特徴を出していく必要があります。</p>
柳沢委員	<p>あと1点だけ、ふじみ野市というのはやはり東京に近いから人口増加しているのだと思うのです。東京がこけたら、ふじみ野市や首都圏はみんなこけるわけです。そこもしっかりと認識した上で考えていくべきだろうと思っています。</p>
中村会長	<p>あの大都市東京も、実はいずれ人口減少する推計がされています。そういう現実を踏まえると、極端な話ふじみ野市だけが人口がずっと伸び続けるかというのは極めて不可能に近いと思われま。柳沢委員が発言されたように、将来規模をどう考えてふじみ野市はどういう公共サービスを維持するのかというところをきちんと考えておかないと、やはり夢の最上位計画で終わってしまう可能性があるんで、そこを気を付けながら議論していきたいと思ひます。</p> <p>続いて岸委員お願いします。</p>
岸委員	<p>中村会長をはじめ、他の委員からも、私が考えていた意見が出されました。私も、隣近所、非常に小さい範囲のコミュニケーションが大切なのではないかと考えております。自治組織も、非常に大切だと思います。実際、大震災などが起きた際は最初に互いを助け合うのは、やはり隣近所の方々であると思ひます。あるいは普段の日常生活で子どもを守っていくにも隣近所が大切なのではないかと考えています。いろいろな統計的なもので、こうした方がいい、ああした方がいいというものもあるかもしれないけれども、やはり基本は外せないと思ひは思っていて、大切にしなければいけないのではないかと。普段からそういうところで行政も活動をサポートしていただければと思ひています。統計的なところでも、埼玉県で住みよさが1番という結果はとても素晴らしいことだと思うのですけれども、ふじみ野駅の開発、上福岡の駅前開発などがとてもうまくいったから、こういう数値が得られているだけではないかとも思ひます。それがなければ、こんなに人口が増えるようなことはなかったかもしれません。1番という結果におごらないで、取組を進めなければならないと思ひます。そうは言っ</p>

<p>中村会長</p>	<p>も、やはり、1番は1番です。1番だったら個性がある程度あってもいいかなと思います。いろいろと工夫すべきところを、まちづくりの中に盛り込んでいった方が面白いのではないかと思います。</p> <p>岸委員の意見を受けて、地域コミュニティをもう一度考え直す時期に来ているのかもしれないと改めて感じています。それから特に今は行政の立ち位置というのが問われています。今までは全国一律で、国の指導に従って公共サービスというのを提供しており、どこの自治体も同じような行政サービスをやっていたわけです。ところが、最近は創意工夫をしないとなかなか各自治体が生き残れなくなっているということがあります。実は市町村によって差が出てきていて、いろいろと創意工夫をしている市町村というのは元気があり、反対に周りと同じようなことだけをしている市町村は特色がなく、そこにどうしても差が出てきている状況です。そういう意味では、市の取り組み方というのが今、問われ始めており、市がどこまで積極的に仕組みを作っていくのか。その辺について国は指導しませんので、市が自ら考えて、市の職員が「私たちはこういう市を目指します」「私たちはこういう仕事をします」という意識を持っていないといけません。そのようなことから、この最上位計画の中で、市の役割の在り方について少し議論したいと思っています。続いて野澤委員をお願いします。</p>
<p>野澤委員</p>	<p>私は、農業委員から出ているわけですが、私事になるのですが、生まれも育ちもふじみ野市で、今年で68年目になります。代々農家でやってきましたが、昔は農村地帯で近郊農家ということである程度の利益が上げられた時代でした。ですが現在は、開発が進み農地もだんだん少なくなり、農家として生計を立てるのも難しい状況となってきています。昔と比べて商業施設が増え生活環境は便利になりましたが、自然といえば街路樹があるくらいで、昔は農家では、敷地の裏に防風林を抱えていて、青い木がたくさんありました。しかし防風林があると風が吹けば落ち葉が飛ぶことで邪魔にされ、今となってはほとんど見なくなりました。また、神社には木があつて当然ですが、その木が秋になれば枯れ葉となって落ちて、それが多くの方から見れば「ごみ」と思われるようになった時代ではないかと感じます。ふじみ野市の人口が増えたことは大変良いことですが、人と人とのつながり、あたたかさとか絆とか、そういうことが希薄になっていると感じます。私も学校の見回りなどをやっておりますが、こんなことを言うと失礼とは思いますが</p>

	<p>が、子どもの親から見て見回り活動はやってもらって当然と思われているようです。子どもはこちらからあいさつすれば返ってくるのですけれども、親はこちらから声をかけても返ってこないことがあります。昔は、よく道徳ということが言われていたのですけれども、現在はそういう道徳という言葉はあまり聞かなくなりました。人と人のつながりをもう少し考えてもらった方が、これからはいいのではないかと感じます。いずれにしても、市民意識調査でも上がってきているように様々な意見がありますが、市民一人ひとりの考え方がありますので、これがいい、あれがいいと市に要望をしても全部ができるわけではないですので、選択をしていく必要があると考えます。</p>
中村会長	<p>農業問題は、今後更に大きい問題になると思います。特に今、TPPの話もありますし、この辺りの農業というのが、非常に市場環境としては厳しいだろうなと思われます。本来であれば、東京近郊で非常に優位性があるはずなのですが、それでも野澤委員の言うとおりに厳しいという話なので、そこは市として地元の産業をどう捉えるかということを考えないといけないと思います。今回の最上位計画の中では、その部分の方向性を明示する必要が出てくるかもしれません。</p> <p>続いて渡辺委員をお願いします。</p>
渡辺委員	<p>私は今、池袋にある大学に通っておりますが、一応生まれも育ちもふじみ野市、上福岡の方ですけれども、恥ずかしながら、今まで家と学校の往復くらいしかしてこなかったもので、ふじみ野市が今どんなふうに変ってきているのかということもぼんやりと知っているくらいの状況でした。しかし去年、ふじみ野市誕生10周年記念事業に企画委員として携わらせていただき、同い年の委員とふじみ野市について考える機会がありました。これまで「ふじみ野市ってどこ？」と友人等に聞かれた時には「川越の近く」とか、「何があるの？」と聞かれても答えられなかったことがありました。このようなことから、企画委員会では新たなふじみ野市の魅力を発掘しようということで、名物となり得るお土産をつくることにより市外にふじみ野市をアピールしようと取り組みを進めてきました。しかし、その魅力は他市と比べた時にはどうなのかというところが大切だと感じました。例えば、資料2でふじみ野市は住みよさランキングで埼玉県1位と評価されているということは、結構知らない市民が多いのではないかと思います。私自身は、この結果を拝見してすごく恵まれた環境で育ってきたんだと改めて認識させられました。その</p>

<p>中村会長</p>	<p>ことから、私が将来子育てするようになった際にはふじみ野市で暮らしたいと思うようになりました。これからふじみ野市の人口を増やしていくためには、住み良さだとか環境の良さというのを、これまで以上にアピールしていく必要があると考えます。</p> <p>今、渡辺委員から発言のあった東洋経済の「住みよさランキング」埼玉県1位という結果を、委員の皆さんも初めて聞く方が多いと思います。実際に住んでいると、案外、市のことが分からないと思います。私みたいに市外から来る人間から見ると、いいまちだなと感じます。コンパクトシティであるし、東京からの距離もそんなに離れていないですし、かつ自然もまだ残っている部分もあります。その辺のPRというのも考えてもいいと思います。要するに、今回の最上位計画の中では、総合戦略との整合性も考え人口を増やすという目標がありますので、最上位計画の中にも人口を増やす要素を入れたいといけなと思います。PRだとか、呼び込むという施策がこの計画の中に必要であると思われるので、その辺を踏まえて議論を進めたいとも思っています。</p> <p>続いて富田副会長お願いします。</p>
<p>富田副会長</p>	<p>皆様のご意見を拝聴していきまして、それぞれごもっともなご意見だと思って聞かせていただいております。私はこの会議をまとめていかなくてはいけない立場と思いきまして、あまり申し上げるのもどうなのかとは思いますが、今、この会議の中で、基本理念と将来像を決めていくという作業に入っていますが、多分、皆様がお話しされたことは、今後の骨子の中でも各論の部分でぜひ盛り込んでいくべきところだなと思いました。提示していただきました基本理念と将来像というのは、あまり否定する部分は少ないと思います。これも入れたい、あれも入れたいというのがあると思うのですが、それをここで抽出しているときりがないので、今日の会議の中の流れでは提示していただいた中で、決めていくのが現実的かなというのは感じております。私は個人的に、今日の事務局からの説明等々聞いていきまして、まずこの埼玉県の中で「住み良さ」1位ということで、それ自体は素晴らしいのですけれども、これは現状で選ばれるということであって、今後も選ばれるかどうかということにつながっていかないと思うのです。資料1の14ページに、「あなたがふじみ野市に転入することを決めた理由は何ですか」とありまして、その第1位の理由は、住宅の規模や価格なのです。こんな感じの家に住みたいと、現実的に自分が35年のローンを組んで、出せるとした</p>

	<p>らこのくらいで、比較的東京に出るのも便利でということを見ると、昔はそれが失礼ながら坂戸辺りだったのが、何となくこの辺に住めるようになってきて、もしかしたら今度は人口推計で13年後は減り始めるというところになってくると、ふじみ野市ではなくても、今度は朝霞市や和光市でいいのではないかということになり兼ねないわけです。ですから、今、住みやすいと言われてはいますが、あまり楽観は出来ないと思っています。例えば、最近志木市で不妊治療の助成金のニュースがありました。資料4の最上位計画のたたき台のところで、今日はこの辺の議論にはいかないかもしれませんが、②「子育てや教育の充実したまちをつくる」ということで、希望出生率1.8という数字が挙がっていますが、現実的には非常に厳しい数字だとは思いますが、これを目指していかなければ、今後の人口減を食い止めるためにはどうしたらいいかということにつながっていかないと思います。これは各論の部分ですが、不妊治療の助成金を出したからといって、いきなり1.8にはならないと思いますが、でも、ふじみ野市はそれくらい真剣にその問題に取り組んでいるということが伝わるような、今の魅力を伸ばして、欠点は改善する。特に計画期間を13年にしたのはまさに人口減を意識してのことです。そこに焦点を当てて、これから議論が進んでいくといいのかなと感じております。まとめませんが、以上です。</p>
中村会長	<p>まさに富田副会長の発言のとおりでございまして、今日、とてもいいご意見をたくさん頂いております。そういう意味では、多分、今日の話は副会長が言ったように、各論の部分できちんと押さえないとはいけません。そこはしっかり、今日の意見を踏まえながら、進めていこうと考えております。今日のところは、まずこの基本理念・将来像の方向性です。そうしましたら、資料4の12ページで基本理念の3本柱に「安全・安心」と「地域力」と「環境」という案が示されています。事務局の方にお伺いしたいのですが、本日は、基本理念と将来像について、方向性を決めますが、次回の会議以降に大筋は変わらないとしても、少し肉付けをする程度の変更は可能なのでしょうか。</p>
事務局	<p>基本理念の3つにそれぞれ説明書きが入っていますが、今日頂いた意見等も踏まえて、修正は当然いたします。それから、重点的に取り組むべき事項について、①、②、③、④とありますが、今日頂いたご意見、例えば郷委員から「ふじみ野市元気健康都市宣言」というお話を頂</p>

富田副会長	<p>きましたので、そういった文言はこの①の中に入れ込むとか、そういった形でご意見を踏まえながら修正はしていきたいと思っています。</p> <p>そうしますと、今日、大きな方向性としては大体こんな感じというところまでやんわりと決めておいて、確定はまた次回以降ということによろしいわけですね。</p>
中村会長	<p>そういうことを踏まえて、お考えいただければと思います。ここは少しまずいなとか、この視点が抜けているといったことがありましたら、ご発言ください。</p>
野澤委員	<p>これを見ると、大体この文言で当てはまっているように感じます。</p>
中村会長	<p>先ほど言われたように、農業の存続という意識をするということであれば、どこかで読めるようにしたいですね。それを、やはり地域の地場産業育成ということで、商業に限らず、農業もその中に入るようなことでも良いかと思います。</p>
野澤委員	<p>農業という分野は安全・安心にも関わってくるものです。例えば水田地帯は、豪雨の時に雨水が溜まるなどがあります。</p>
中村会長	<p>防災上にも活用されているというのがあるんですね。そこはやはり、策定の段階でそういうものが読めるようにしておかないとまずいということですね。</p>
牛場委員	<p>私が勘違いしたのか、将来像というのは、案として4つ挙がっている中のいずれかを選択するという認識ですが、現在の将来像は、「自信と誇りそして愛着のあるふじみ野」ですね。それに代わるものとして、この中からどれかを選べればということによろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>この4つから選んでくださいということではないです。何もないと、なかなか議論もしづらかったですので、今までの庁内の意見ですとか、アンケートから読み取れるようなところで、案として出させていた状況です。</p>
中村会長	<p>例えば、組み合わせてもいいわけですね。</p>

事務局	はい、そうです。
野澤委員	先ほど自治組織の話が出たのですけれども、確かに自治組織も高齢者が多く、若い人が入ってこないというのが現状だと思います。それをどのように皆さんに協力してもらったらできるかということも1つの課題ではないかと思います。地域力を出すには、若い人の協力も得なければ難しいのではないかなと思います。若い人は、現実、仕事が精一杯なわけですから、協力しろというのは無理なところもあると思うのですけれども、ある程度は理解していただいた方が良くと思います。
中村会長	<p>地域を活性化させるためには、やはり若い人たちの参加というのも当然視野に入れなければいけない。その仕組みをつくってあげるというの必要だと思います。その辺を、今後の最上位計画の中でどうするのかは議論していきたいです。先ほど言ったように、地域というものはどういう立場なのか、市の役割はどうなのかということを確認した上で、最終的に地域ではどのような仕組づくりが必要であるかを議論する必要があると思います。</p> <p>では、今日のところでは事務局案のとおりでよろしいですか。もし、またあれば、議論の中で修正を加えていくということも可能ですので。</p>
郷委員	「安全・安心」と「環境」がとても近いような、同じようなことをうたっているように、受け取れます。
中村会長	「安全・安心」と「環境」の両方の説明書きに気候変動の内容が記述されています。
郷委員	そうなのです。同じような表現で似たような記述になっており、3本柱という感じがしない。「安全・安心」と「環境」がくっ付いているような感じを受けます。
中村会長	むしろ「環境」は、本来「住み良さ」としての表現にも取れます。
事務局	ここで、「環境」という言葉を使用したのは、市民意識調査の中で非常に多かった意見として、都心にも近いけれど、自然環境が残っていると、都市景観、街並みといったところのイメージにより、「環境」とい

	う言葉を使用しました。
中村会長	事前に送付された資料ですと、「駅周辺の市街地の整備や産業の振興を通じたにぎわい創出」という形で記述されているので、本日配布された修正版とは表現が随分変わってしまったなという感じがします。
郷委員	そうですね。修正版では「環境」が、「安全・安心」の方に近付いてしまっているような捉え方ができてしまうのです。
中村会長	むしろ修正前の案でいいのではないですか。
事務局	内部の会議でも若干、意見が出た部分もあったので、少し変えたのです。
中村会長	地球温暖化や気候変動は「安全・安心」に記述されているので、むしろ「環境」には必要がないのではないのでしょうか。では、基本理念に記述されている説明書きを事務局の方でもう一度見直してみてください。そうしましたら、この「安全・安心」「地域力」「環境」の3本柱ということで、ご了解いただければと思います。よろしいですか。
柳沢委員	参考までにですが、市の検討委員会の時に、他のキーワードは出なかったのですか。これ以外に言葉がたくさん出てから、最終的にこの3つに決められたのでしょうか。
事務局	そうですね。いろいろキーワード的なものは、資料4の11ページのようなものが出されまして、その中で計画の全体に関わる部分として、このような3つのキーワードが導き出されたという形です。
郷委員	他に4つ5つあって、その中からこの3つに絞ったということではなくてですか。
事務局	そういうことではないです。
中村会長	他になれば、次に移ります。では、資料4の13ページの将来像です。事務局案以外の表現があれば、委員の皆さんの意見も承りたいと思います、いかがでしょうか。フリートーキングで、これがいいのではないかななどでも結構です。

富田副会長	これも本日、決定しなければならないのですか。決定した場合、その後に変更することも可能なのでしょうか。
事務局	若干の修正は可能かもしれないですけども、この将来像が軸となって次の議論に進んでいくものです。
中村会長	事務局案では「住む」がキーワードとなっています。まず、議論の中心はそれでいいかというところです。ですから、市民意識調査結果を踏まえると、「住む」という観点を軸にしていくものと考えます。ですから、この住むとか、住み心地とか、住み続けるとか、「住む」というキーワードが入っているので、それが一番大切なのかなと感じています。他にご意見があったら、遠慮なく発言していただいて結構です。
郷委員	2つ目の案は、「都会と田舎が同居をしている」というキーワードを拾いあげ「自然と都市の融合」という表現をしていますけれども、私自身はずっとふじみ野市に住んでいて、「自然との融合」だったら違和感はないのですが、「自然と都市の融合」というと、あまり「都市」と感じたことがないのです。そんな都会という感じはないと思います。
中村会長	全国で人口5万人以下の都市が7割あるので、その点から言うとふじみ野市は大都市です。ただ、確かに感覚的なもので「都市」という表現が、ふじみ野市に合致するのかどうかというところは少し検討の余地があります。
郷委員	私は、それが合致していないような気がして、この「都市」という言葉がなくて、「自然との融合」、「住み心地の良いまち」というのなら違和感はないけれども、これに「都市」と入ってしまうから、この2つ目の案にすごく違和感を受けます。
野澤委員	「住む」について言うと、人が住むには人が来るわけですから、人のつながりがないような場所に住んでもしょうがないと思うのです。人と人のつながりが一番大事なことではないかなと思います。現在は人のつながりが希薄になっている時代で、すごく残念に思います。
富田副会長	私の立場から恐縮ですけども、つながり、絆が薄れているというご発

	<p>言が、野澤委員や他の委員からもあったと思います。将来像は、現状ということではなくて、「今後こうあるべき」ということだと思うのです。先ほどその話が出ましたが、キーワードにはあれもこれもではなく、この案の中で皆さんの意見を一番捉えているのは、私は3つ目の「人がつながる豊かで住みよいまち、ふじみ野」が端的に一番表現されているのかなと、ご意見をお伺いしながら感じておりました。</p>
中村会長	<p>他にご意見はいかがでしょうか。</p>
野澤委員	<p>言うのは簡単ですが、それを実行するのは大変勇気のいることで、ここにも「豊かな自然が残っているまちです」と記述されていますが、こんなに簡単に記述されていていいのかなと、私は感じます。</p>
中村会長	<p>やはり「人のつながり」「住みよい」というキーワードが入っているので、そういう意味では、今日の議論が集約されているというのが、3つ目の案かなと思うのですがいかがでしょうか。</p>
牛場委員	<p>「住みよい」というのは、今の状態を言っているもので、目指す将来像としては、住み良いからどうなんだという方向を示した方がいいのではないかと思います。というのは、確かに市民意識調査からの意見を反映しているので市の現状を表現していますが、この「住みよい」を全面に出すよりも、では今後どのようなまちを目指すのか、将来どうなっていくんだというのを何か少し盛り込んだ方がいいように思うのです。今は住み良いと評価されている現状を、そのまま将来も続けていくために「住みよい」という言葉を入れるのか。そうではなくて、住み良いまちだから、みんなでもっとつながりをもって、関係を深めていくといった言葉が出てくると、将来像としては形になるように思うのです。このままでは少し何か足りないなという気がするのです。</p>
中村会長	<p>「住みよい」というところの工夫が必要なのかもしれません。何か良いキーワードはないですか。</p>
郷委員	<p>そうでしたら、一つ目の案の「住み続けたいまち」という言葉が良いのではないのでしょうか。</p>
渡辺委員	<p>この将来像というのは、決定をしたら、どこまで共有されるものなので</p>

	<p>しょうか。</p>
中村会長	<p>これから13年間、市が掲げ続けるもので、あらゆる場面で市民や市外に対して幅広く周知されるものです。</p>
牛場委員	<p>現在の将来像である「自信と誇り そして愛着のあるまち ふじみ野」というのが続いているわけですから、それと同じ位置付けになるものです。</p>
中村会長	<p>この将来像を決めると、全ての施策が将来像を目指して市は動くのです。そういう意味では大変重要です。ですから、これまでの各委員の意見をまとめると、将来に向かって「人がつながる豊かで住み続けたいまち」を目指すということではいかがでしょうか。</p>
郷委員	<p>そうですね。「住み続けたい」という言葉はいいですね。</p>
中村会長	<p>もう一度整理しますと、「人がつながる豊かで住み続けたいまち ふじみ野」でよろしいでしょうか。</p>
富田副会長	<p>「住み続けたい」ですと、現在住んでいる方のメッセージとして強くないですか。もちろん、市に来ていただいて、そのまま住み続けてほしいのですけれども。</p>
郷委員	<p>そうすると、「住んでみたい」と、これが一緒ですからね。「住む」という言葉を入れたいですね。</p>
西村委員	<p>反対に入れなくてもいいと思います。</p>
中村会長	<p>どうですか。何かいいキーワードはありませんか。</p>
岸委員	<p>他のキーワードで、「あったかいまち」とか、「元気なまち」がありますね。</p>
中村会長	<p>「住んでみたい」ですと、1回住んだら住み続けたいくなるというメッセージにならないのかもしれませんが。「住み続けたい」という表現で、1回住めば住み続けたいくなるまちということです。「人がつながる豊かで</p>

郷委員	<p>住み続けたいまちふじみ野」という表現で、実は市外の方も呼び込んで、そのまま住んでもらいたいという意志が入っていると解釈できると思います。</p> <p>そう解釈できますね。</p>
野澤委員	<p>「人がつながる」というのは、どういう意味でしょうか。</p>
中村会長	<p>今日の議論を踏まえると、最近、地域で人のつながりが希薄になっているということで、地域を再構築しようということです。例えば自治組織ですと、若い方の加入率が低い中で、若い方が入って来られるようなまちづくりをするなど。それから、地域協働とか、最近は男女共同参画などが求められていますので、これに向かって市の取り組みを推進するのです。私は官民連携の専門なのですが、要するに官と民も一緒になって取り組みを進めようというものです。そこでも人のつながりがポイントになってきます。地域も一緒になって市を考えていきませんかというのが必要となってくるのです。ですから今後は、市が勝手に何か議論をしてサービスをやるのではなくて地域も一緒になって、地域を支えるという姿勢を、市の政策で打ち出すことも必要かと思います。ですから逆にいうと、そういうことをうたった以上は、今後、市がそういう方向性に沿った施策を打っていくはずなのです。</p>
郷委員	<p>説明書きのところで「移り住んでみたい」、「そして何世代にも続いて住み続けたい」というまちを目指しますという記述をすると、分かりやすいと思います。</p>
事務局	<p>最終的に冊子にする際には、今、郷委員が発言されたような言葉を将来像の説明書きとして記述するという形にしたいと思います。</p>
中村会長	<p>それでは、他に意見がなければ、事務局にはこれまでの議論を踏まえて修正をお願いいたします。続いて議題3のその他について、事務局から連絡はありますか。</p>
事務局	<p>(3) その他 次回、第3回の会議日程についてです。9月29日木曜日、午後7時から本日と同じ場所のこちらの会議室で予定しております。よろしく</p>

中村会長	<p>お願いします。</p> <p>3. 閉会</p> <p>ありがとうございました。本日は、非常に貴重なご意見を、皆さんに発言していただきました。次回も是非、各自の考え方を遠慮なくご発言いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、これもちまして「平成28年度第2回ふじみ野市総合振興計画審議会」を終了いたします。ありがとうございました。</p>
------	--